

二〇一六年度

沖縄大学 一般入試A日程

「国語」

・法経学部 法経学科

・人文学部 国際コミュニケーション学科

福祉文化学科

こども文化学科

国語

※答はすべて解答用紙に書きなさい。

【問題】 つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

1 どんなにゆたかになり、どんなに進歩し、どんなに技術が新しくなっても、変わらないものがあります。一日の時間です。

2 一日は朝と昼と夜でできていて、一日は二十四時間であるということ。この、変わらない一日の時間、変わりばえのしない一日の時間を、わたしたちがもちうるゆたかな時間にしてきたのは、一日の特別な時間です。

3 特別な時間というのは、一つは、ゆるやかな時間です。夜あけ、①曙、朝ぼらけ、朝まだき、朝一、朝っぱら、昼前、昼やすみ、昼過ぎ、昼さがり、お茶(の時間)、日の暮れ、たそがれ、夕まぐれ、②時分時、食事時、あるいは、夜半過ぎ、丑満時、真夜中、などなど。

4 そういったあいまいなとっていい言葉で表されてきた、【A】そういった言葉でしか表せないような、③びみょうな時間。はっきりした④時刻をもたない。けれど、誰にもはっきりと感じられる、ゆるやかな時間。そうしたゆるやかな時間が、わたしたちの一日の時間にもたらしてきたのは、(1) 時間と時間の間の時間、時の間をつくる時間でした。

5 そういった時間は、何でもない、⑤へいぼんな時間のようにしか思えないかもしれません。【B】「どんな変化によっても変えられない一日の時間が、すべてデジタルで、きっかりと表されるようになったいまは、そういったあいまいな、ゆるやかな、しかしゆっくり何か充たされてくるような、時間の間の時間が、⑥陰影やニュアンスや⑦すいいははぐくむ間をもった時間の感覚が、ひどくもちにくいものになってしまっています。

6 昼さがりは、一日のどの時間になるのか。たそがれは、時分時は、一日のいつの時間のことか。頃合いというような時間の目盛りは、どうやって測るのか。そういった時間の数え方そのものが、いまはもう⑧むこうになっているのかもしれませんが。

7 もう一つ、わたしたちの一日の時間をゆたかにしてきた、特別な時間があります。(2) 特別な瞬という時間です。そのときは気づかないけれど、あとになって気づく、「あの一瞬」といえるあざやかな時間もまた、変わることはないわたしたちの一日をゆたかにしてきた時間です。【C】「ちようどサッカーで、ゴールが決まったときのようなあざやかな一瞬が、試合全部の時間をゆたかな記憶に変えることができるように。

8 しかし、一日の時間のなかの特別な一瞬というのは、スポーツの場合のように待ちのぞむ劇的な一瞬でもなければ、その一瞬のためにできることをする目標でもありません。そうではなく、もっとずっとへいぼんで、あたりまえで、そうと意識しなければそのまま過ぎてしまう、そんな一瞬にすぎません。それが、どうして特別な一瞬になるのか。

9 『人生の特別な一瞬』（晶文社）という詩文集に、じぶんで書きとめた⑨覚書。

人生の特別な一瞬というのは、本当は、【D】ありふれた、なにげない、あるときの、ある一瞬の光景にすぎないだろう。そのときはすこしも気づかない。けれども、あるとき、ふっと、あのときがそうだったのだということに気づいて、思わずふりむく。

ほとんど、なにげなくさりげなく、あたりまえのように過ぎていったのに、ある一瞬の光景が、そこだけ切りぬかれたかのように、ずっと後になってから、人生の特別な一瞬として、ありありとした記憶となってもどつてくる。

特別なものは何もない、【E】、特別なのだという⑩ぎやくせつに、わたしたちの日々のかたちはささえられていると思っ。

10 ぎやくせつの時代に、わたしたちは生きているのだと思います。大きな電車事故のニュースのような、突然の⑪悲惨な出来事が伝えるのは、【F】、事故や事件によって当事者たちから失われる最大のものが「一日のへいばんな時間」という特別な時間である」という、⑫不可逆的な事実です。

11 人生というのは人の、日々の時間に対する態度のことだ。——夏目漱石は、確かそういう意味の言葉を、『道草』という物語のなかにのこしています。しかし、わたしたちの一日の時間をゆたかにしてきた、ゆるやかな時間、そして一瞬という特別な時間は、いまはとても⑬じっかんしにくい、失われゆく時間になってきています。

12 日々の時間に対する態度を変えてゆかなくてはいけない。時間を細切りにしないで、大きく、ゆつくりと、一日の特別な時間を手にしてゆくことができなくてはいけない。そうでなければ、わたしたちの⑭かんじゆせいはどんどん貧しくなっていくってしまう。

13 たった一つの時間だけがあるわけではありません。水辺には水辺の時間があります。緑陰には緑陰の時間があります。夜には夜の時間があり、対話の時間もあれば、孤独な時間もあります。それぞれの時間は、それぞれに時間の数え方がちがうのです。時間の数え方をたくさんもっているほど、人は一日の特別な時間をもつことができる。そう言っているのではないのでしょうか。

（長田弘「一日の特別な時間」『なつかしい時間』岩波新書二〇一三年より。ただし、一部改変した。）

問一 傍線部①から⑭の漢字にはひらがなで読みをつけ、ひらがなは漢字に直しなさい。

問二 【A】から【F】にあてはまるものを次のなかから選んで入れなさい。

だからこそ あるいは ごく 実は たとえば けれども

問三 本文中に、夏目漱石とあるが、次の説明にあてはまる、この作者によって書かれた作品名を正しく答えなさい。

「一九一四年（大正3）朝日新聞連載『行人』の発展で、孤独感や人間憎悪の念に救いがたい絶望を感じ、自己否定に駆り立てられる個人主義思想の限界を把握したとされる（『広辞苑 第六版』作品で、「先生と私」「両親と私」「先生と遺書」からなる。

問四 本文を四つの意味段落に分けて、それぞれ小見出しをつけてみた。四つの意味段落への分け方と、それぞれの小見出しとして適切なものを、あとの選択肢から選び記号で答えなさい。《分け方》は選択肢ア～オから、《小見出し》は選択肢A～Dから選ぶこと。

《分け方》

ア	1・2／3・4・5・6／7・8・9・10／11・12・13
イ	1・2／3・4・5・6／7・8・9／10・11・12・13
ウ	1・2・3・4／5・6・7・8／9・10・11・12／13
エ	1・2・3・4／5・6／7・8・9／10・11・12・13
オ	1・2・3・4・5・6／7／8・9・10／11・12・13

《小見出し》

意味段落一（ ）／意味段落二（ ）／意味段落三（ ）／意味段落四（ ）

- A ゆるやかな時間
- B 日々の時間に対する態度
- C 一日の時間
- D 特別な一瞬

問五 本文中に傍線部（1）「時間と時間の間の時間、時の間をつくる時間」とあるが、それはどういうことをさしていますか、七〇字程度で説明しなさい。

問六 本文中に傍線部（2）「特別な一瞬という時間」とあるが、それはどういうことですか。一〇〇字程度で説明しなさい。

問七 この文章についてのあなたの意見や感想を二〇〇字程度で書きなさい。